

中部ブロック会議（平成29年8月24日、25日 岐阜県：ホテルグランヴェール岐山）

参加者約110名を得て中部七県ブロック協議会第62回定期大会として開催。大会テーマは「これからの人材育成と社会貢献を考える」。

開会式では、齋木裕司岐阜県専修学校各種学校連合会副会長が開式のことばを述べ、国歌斉唱、平野宏司岐阜県専修学校各種学校連合会会長が歓迎のことばを、浦山哲郎中部七県ブロック協議会会長が主催者あいさつを、小林光俊全専各連会長があいさつを述べた。次いで参議院議員赤池誠章参議院文教科学委員会委員長 自民党文部科学部会長、古田肇岐阜県知事（代読）、村下貴夫岐阜県議会議長、細江茂光岐阜市長（代読）の来賓祝辞、来賓紹介、祝電披露を行ない開会式が終了した。

本会議では、平成28年度事業報告及び大会テーマの提案説明を行い、異議なく拍手承認された。次に星川正樹文部科学省専修学校教育振興室長が文部科学省行政説明として、これからの専修学校教育の振興のあり方について、基本的方向性や具体的な施策などの報告、平成29年度専修学校関係予算について触れ、学校評価の充実による専修学校の質保証・向上、専門学校生に対する授業料減免支援についての支援の効果などの説明が行われた。全専各連事務局から全専各連運動方針について触れ、専修学校、各種学校制度の充実・改善、職業実践専門課程の浸透による専修学校全体の地位向上、専門職大学・専門職短期大学設置基準等に関する全専各連としての要望について述べた。また一般財団法人職業教育・キャリア教育財団の事業であるJ検・B検、共済保険等への取組について説明し、更なる理解を促した。

閉会式では、大会宣言が提案され原案どおり承認された。岐阜県から富山県への県旗引継、浦山哲郎富山県専修学校各種学校連合会会長の次期開催県あいさつが行われ、会議を終了した。その後、懇親会を開催し初日が終了した。

翌日、岐阜県内の視察が行われ全ての日程が終了した。

なお、採択された大会宣言決議文は次のとおりである。

【大会宣言】

「これからの人材育成と社会貢献を考える」を大会テーマに、ここ岐阜の地において、中部七県の専修学校・各種学校が集い、中部七県ブロック協議会第62回定期大会が盛大に開催され、多大なる成果を収めた。

多様化とグローバル化の中、各国・地域が個性を強めており、職業教育及び多様な学びの存在意義も強まっている。地域の特性やそこに住む人々の思いある暮らしのもととなるのが専門性の高い教育であると同時に、そうした個々をつなぐのも職業教育の役割である。

日本の社会で急速に少子高齢化が進む一方、世界はグローバル化の中でますます先行きの不透明感を増している。光明はどこか？あらためて自らの社会的役割と私学としての発展を鑑みたとき、我々には実学の間、専門教育があることの重みを感じる。社会のあらゆる側面で、また出生から老後まで、人生のあらゆる局面で、専門教育は常に地域の人々に

寄り添い、世界を変えていく。経済や社会のうねりに飲み込まれることなく、むしろ、世の中を新たな方向へ導くのが専門教育であり、その担い手は専修学校・各種学校である。この矜持を携えこれからも前進していきたく強く願う中、本大会では、現状把握と問題解決の方向性について熱心な研究討議がなされた。

ここに大会の成果を踏まえ、日本と世界の明日を担う豊かな心と志を持ち創造性に富む人材育成と社会貢献に向け、実りある専門教育を行うことを誓い、本日、第62回定期大会の名において、次のとおり宣言する。

1. 社会環境や教育施策の流れを鑑み、有益な人材を輩出すべく、さらなる職業教育の充実と向上を図る。

1. 実践的専門教育の健全な学校運営に積極的に取り組み、充実した魅力あふれる学習環境を提供する。

1. 専門職大学・短期大学の今後の動向につき、情報収集・研究において、さらなる積極的活動を行なう。

1. 社会貢献的見地から生涯学習の機会や職業意識啓発の機会を拡充するために、各種講座を積極的に推進する。